

# 新訳華嚴經音義私記の直音音注

鈴木 真 喜 男

## 一

表題にかゝげた古鈔本二卷（以下、私記と略称する）の書誌学的解題、乃至、国語学的価値は、すでにとかれて<sup>1</sup>いる。

私記にみられる漢字音の音注には、反切形式のものと直音形式のものがある。反切形式による音注（九六〇余例）は、わずかの倭音注とみとめられるものをのぞき、<sup>補注</sup>他は、ほとんど漢字音としてのたゞしい反切をしめしているのに対し、直音形式の音注は、むしろ、すべて倭音注としての音注であろうことのみとおしが、ふるく亀井孝氏によって指摘された。<sup>2</sup>故有坂秀世博士も、直音形式の音注を倭音注とみなされたこととくである。<sup>3</sup>

本稿は、私記にみえる直音形式の音注を採集整理したものである。

排列の順は、従来の慣例により、大体、二百六韻にしたがい、上声、去声の韻を平声の韻におさめた。たゞし、用例のしたの（ふ）と、直音下字（X音AのAを、かりに、かくよぶ）それ／＼の

属する韻と声とをしめた。このばあい、韻は、二百六韻による。声は、陸志韋氏「証広韻五十一声類」の類別による。<sup>4</sup>すなわち、

工匠…上孔音（東—董）  
古—苦

において、東は、直音上字の属する韻、董は、直音下字の属する韻、古は、直音上字の属する声類、苦は、直音下字の属する声類である。なお、（—）のなかの数字は、私記の巻数、用例のうえの数字は、わたくしに付した整理番号である。以下、この番号によって、例をしめす。……は、直接関係しない記事の省略をしめす。

1 岡田希雄 複製にそえられた「新訳華嚴經音義私記解説」

2 亀井 孝 「国語研究資料の影印三種」（言語研究第六号）注1の亀井氏論文。

3 『国語音韻史の研究 増補新版』六八二頁。

4 燕京学報第二十五期。なお、三根谷徹「韻鏡の三・四等について」（言語研究第二十二・三三）参照。

補注 吉田金彦「新訳華嚴經音義私記の反切について」（静岡女子短期大学紀要第三号）参照。

東韻(直)

1、工匠…上孔音(東古董 14)

2、蒙惑 上音牟(東莫尤 17)

屋韻(直)

3、占卜…卜音僕(屋博沃 35)

東韻(拗)

4、崇巖邃谷 崇高也音宗(東士冬 23)

屋韻(拗)

5、腹胎 上複(屋方屋 21)

6、湍激洄須復…復音服(屋符屋 60)

冬韻

7、統領 上通(宋東 21)

鍾韻

8、聳幹 上音從(腫息疾鍾 8)

9、胸臆 上音孔(鍾許董 48)

10、涌沸 上勇(腫以腫 63)

燭韻

支韻

11、付嘱…音俗<sup>1</sup>(燭徐燭 23)

12、咎辱…下音肉(燭而燭 58)

13、…臂織上音比(寘方寘 65)

14、臂 音比(みぎにおなじ 66)

15、不避 下音百(寘符博陌 23)

16、旋靡…靡音彌(武紙武 7)

17、窺覷 上音枝<sup>2</sup>(去支支序)

18、騰暉綺…綺音奇(去紙渠 5)

19、虧減 上音貴(去支居 15)

20、車騎 下音奇(渠支渠 28)

21、蚊蟻…下音疑(魚紙魚 66)

22、咎辱 上音之(紙子紙 58)

23、忿恚…下音伊(寘於寘 23)

脂韻

24、密緻髮…緻音知(至直陟 27)

25、咨嗟恋慕 咨音諮(脂子脂 63)

- 26、市肆：肆陳也上音四（息至息 63）  
 27、城邑聚落村隣市肆 肆音四（みぎにおなじ 65）  
 28、死屍：下音尸（式至式 17）  
 29、八万尸虫尸 々音之（脂之之 21）  
 30、三維 々音唯（以脂以 7）  
 31、四隅 下：維也維音唯（みぎにおなじ 8）  
 之韻  
 32、志心 上音子（志止子 38）  
 33、嗣史音（志止 75 欄外）  
 34、市肆：市音之（時止之 63）  
 35、城邑聚落村隣市肆 市音之（みぎにおなじ 65）  
 36、怡暢 上音伊（以脂於 28）  
 微韻  
 37、心肺々音弁（方方 21）  
 38、涌沸：下發（方未方 63）  
 39、肥 音被（符符 23）  
 40、擯大悲甲 擯衣甲也衣音意反（未於志 78）  
 41、騰暉綺：暉音貴（未許居 5）

- 魚韻  
 42、悽求 上音奇（許微渠 48）  
 43、臨馭：下進也音加（魚御古麻 28）  
 44、沮壞 上：音処（子魚昌御 8）  
 45、酸楚：下音所（初語所語 10）  
 46、清炎暑：暑音所（式語所語 4）  
 47、安徐 下音序（徐魚徐語 18）  
 48、徐軫 上音舒（徐魚式魚 62）  
 49、淤泥 上音於（於魚於魚 23）  
 模韻  
 50、怖畏恐 上音布（暮普博暮 55）  
 51、吐：音斗（他姥都厚 7）  
 52、吐納 上音土（他姥他姥 17）  
 53、圖書 上音豆（徒模徒候 36）  
 54、打棒屠割：屠割上音斗（徒模都厚 55）  
 55、盲翳：下音久（古姥居有 23）  
 56、顧恋 上：音故（古暮古暮 20）

57、覺寤 々音吾 (暮五模 13)  
 58、龜獮 上音租 (模倉作模 35)  
 59、狐狼 上扈反 (模胡姥 27)

虞韻

60、連膚…下…音普 (方虞 普姥 25)  
 61、皮膚 々…音布 (方虞 博暮 65)  
 62、跌 音夫 (方虞 48)  
 63、腸腎肝肺…肺音布 (方虞 博暮 27)  
 64、符沢 上…音付 (符方遇序)  
 65、父音斧 (方虞 方序)  
 66、霧煙 上音牟 (武遇 莫尤 23)  
 67、区分 上…音久 (去虞 居有 7)  
 68、樂娛 下音吳 (魚虞 五模 15)  
 69、八隅 々音愚 (魚虞 魚虞 7)  
 70、踰…音喻 (以虞 以遇 4)

哈韻

71、自服戴 下音帝 (都代 都霽 39)

灰韻

72、憤兩 上音花 (隊古呼麻 58)  
 73、誼憤…下貴 (隊古居未 58)  
 74、摧殄 音最 (昨灰 作泰 2)  
 75、誘誨…下音化 (隊呼呼禡 65)  
 76、湍激洄須瀆…洄音迴 (灰胡灰 60)  
 77、雷音類 (盧灰 力至 6)

齊韻

78、高低 下…音帝 (都齊 都霽 17)  
 79、涕泗悲泣 涕音帝 (他齊 都霽 63)  
 80、淤泥…泥音乃 (奴齊 奴海 23)  
 81、髻音計 (古齊 古霽 27)  
 82、翳膜 上音亞 (烏齊 於禡 17)  
 83、医膜 上或本為翳字音亞 (みぎにおなじ 60)

祭韻

魂韻

84、曉誨…說也音稅 (式祭 式祭 78)  
 85、渾濁 上音坤 (魂胡 魂苦 16)

真韻

86、乘巾…巾音斤（真—欣 居—居 58）

87、震振 上音信（震—震 之—息 15）

88、震振（上音信）…下音同（震—震 之—息 15）

89、心腎肝肺…腎音神（軫—真 時—食 25）

90、腸腎肝肺…腎音神（みぎにおなじ 27）

91、城邑聚落村隣市肆…隣音輪（真—諄 力—力 65）

質韻

92、瑟琴 上音出<sup>10</sup>（櫛—術 所—昌 14）

諄韻

93、脣口 上音真（諄—真 食—側 65）

文韻

94、忿恚 上音分（吻—文 芳—方 23）

寒韻

95、誕生 上音單（旱—寒 徒—都 31）

96、聳幹…下音干（翰—寒 古—古 8）

97、心腎肝肺…肝音干（寒—寒 古—古 25）

98、腸腎肝肺…肝音干（みぎにおなじ 27）

桓韻

99、罕音干<sup>11</sup>（旱—寒 呼—古 序）

100、繁…音槩（桓—桓 蒲—蒲 5）

101、儔伴…下音半（緩—換 蒲—博 58）

102、圈揣…団音端（桓—桓 徒—都 23）

103、揣食…上…団也団音端（みぎにおなじ 25）

104、庭院 々音員（桓—仙 胡—于 15）

末韻

105、沫偽 上音末（末—末 莫—莫 15）

鐸韻

106、軸轄…轄音割（鐸—曷 胡—古 62）

刪韻

107、泉澗 音間（諫—禪 古—古 4）

108、頑毒 上元（刪—元 五—魚 23）

109、筆削…（刪音讚）（刪—翰 所—作 序）

元韻

110、建<sup>12</sup> 音斤（願—欣 居—居 17）

宵韻  
 122、滲漏……泉者音早<sup>16</sup>（蘇——子皓78）  
 豪韻  
 121、淵才 上音演（先——烏——以——彌14）  
 120、冒索 上音犬（古——銑——苦——銑23）  
 先韻  
 119、腴徹……下音鉄（直——薛——他——屑22）  
 118、缺 決（去——薛——古——屑15）  
 薛韻  
 117、禪音善（時——仙——時——禪序）  
 116、扇 音仙（式——線——息——仙65）  
 115、筌 音宣（七——仙——息——仙序）  
 114、蹇……間音<sup>15</sup>（居——彌——山——古——75欄外）  
 仙韻  
 113、爰 音下元<sup>14</sup>（于——元——而——腫序）  
 112、諠憤 上音宣<sup>13</sup>（許——元——息——仙58）  
 111、困苑 下音怨（於——阮——於——願35）

鐸韻  
 134、狐狼……狼音良（唐——盧——力——陽27）  
 唐韻  
 133、灑 音者（所——馬——之——馬14）  
 132、雅 音牙（五——馬——五——麻11）  
 131、苗稼……下音家（みぎにおなじ15）  
 130、稼音家（禡——古——麻4）  
 麻韻  
 129、叵思 上音波（普——果——博——戈7）  
 戈韻  
 128、簫笛 上音照（蘇——蕭——之——笑15）  
 蕭韻  
 127、微笑 下音燒（息——笑——式——宵31）  
 126、翹棘……翹音交（渠——宵——古——肴14）  
 125、矯慢 上音交（居——小——古——肴58）  
 124、超出 上音召（丑——宵——直——笑26）  
 123、苗稼 上妙（武——宵——武——笑15）

- 135、鼓楊海水…搏音伯 (鐸|陌 博|陌 52)
- 136、翳膜…下音莫 (鐸|陌 莫|陌 17)
- 137、医膜…下音莫 (みぎにおなじ 60)
- 138、胃索…下音赤 (鐸|陌 蘇|昌 昔| 23)
- 139、肇略…下…音白 (鐸|陌 盧|蒲 序|)
- 140、淪滑…落音樂 (鐸|陌 盧|盧 鐸| 36)
- 陽韻
- 141、罔均 上音忘 (養|漾 武|武 3)
- 142、怡暢…下音長 (漾|陽 丑|直 28)
- 143、腸腎肝肺 腸音丈 (陽|養 直|直 27)
- 144、龜獮…下音況 (養|漾 居|許 35)
- 145、漿音將 (陽|陽 子|子 59)
- 146、垣墻…唐音成 (陽|陽 昨|時 8)
- 147、工匠 下祥音 (漾|陽 疾|徐 14)
- 148、牀蓐<sup>17</sup> 上音常 (陽|陽 士|時 28)
- 149、霜雪 上音相 (陽|漾 所|息 15)

- 150、無央數 央…音映 (陽|映 烏|烏 8)
- 151、無央々音映 (みぎにおなじ 38)
- 152、憤兩…下堯<sup>18</sup> (養|蕭 力|五 58)
- 藥韻
- 153、沒溺…下音若 (藥|藥 而|而 23)
- 154、却 音忽 (藥|沒 去|呼 7)
- 155、搃…酌水也…酌音着 (藥|藥 之|直 序|)
- 陌韻 (直)
- 156、符沢…下音商<sup>19</sup> (陌|陽 直|式 序|)
- 庚韻 (拗)
- 157、奉迎 下音向 (庚|漾 魚|許 序|)
- 陌韻 (拗)
- 158、酸劇…下音客<sup>20</sup> (陌|陌 渠|苦 26)
- 耕韻
- 159、所僇…耕音常 (耕|陽 古|時 20)
- 160、堅硬 下音經 (諍|青 五|古 10)
- 清韻

161、羸…音盈<sup>21</sup>（清以清21）

昔韻

162、炙身炙 上音夕（昔昔徐64）

青韻

163、罄珍 上…音下（徑馬胡28）

錫韻

164、雨滴 下音敵<sup>22</sup>（都錫都錫13）

165、數其滴…滴音宅（都錫都錫15）

166、与敵 下…音着（徒錫徒錫15）

167、親戚 下音赤（倉錫倉錫26）

侯韻

168、偷盜 上音注（他侯他侯35）

169、奏…音走（候作候8）

170、喉吻…上音具（胡侯胡侯17）

尤韻

171、甲冑…整<sup>23</sup>音牟（尤莫尤14）

172、甲冑…整音牟（みぎにおなじ23）

173、臭穢 上主（有賈昌之15）

174、修 音須（尤虞息息7）

175、酬對 上…音須（尤虞時息20）

176、獄囚 々音受（尤虞徐時25）

177、誘誨 上音畏（有未以於65）

侵韻

178、欽敬 上音禁（去侵去侵18）

179、瑟琴…下音敵<sup>24</sup>（渠侵渠侵14）

180、寢寐…寢音針（七侵七侵66）

181、不侵 下音甚（七侵七侵27）

緝韻

182、或級其頭級音急（居緝居緝55）

183、涕泗悲泣…泣音急（去緝去緝63）

184、什物 上…音十（時緝時緝28）

185、粒 音立（力緝力緝24）

186、無完粒…粒音立（みぎにおなじ27）



塩韻

187、霑麗 上音点 (陟都 18)

188、占卜 上音点 (之豔都 35)

189、塹 音漸 (七豔疾 11)

190、陰 音兼 (許琰古 20)

葉韻

191、迎接…下音摂 (子葉式 63)

添韻

192、無点 々音占 (都添之 32)

193、謙 々音兼 (苦添古 19)

銜韻

194、眼鑒 音今<sup>25</sup> (銜侵古 33)

195、崇巖邃谷…巖音蔽 (銜魚蔽 23)

登韻

196、騰暉綺 上音登 (徒登都 5)

197、不肯 々音興 (等蒸許 58)

198、憎惡 上音増 (登作登 20)

蒸韻

199、拯…音乘 (拯食證 15)

200、拯濟 上音乘 (みぎにおなじ 63)

201、特垂矜念…矜音興 (居蒸許 21)

202、珂雪…膺音雄 (烏蒸東 15)

職韻

203、翹棘…棘音黒 (居呼德 14)

204、式 音色 (職所職 序)

205、抑縱 上音億<sup>26</sup> (職於職 17)

206、胸臆…下億 (職於職 48)

1 原文「志侶…音俗訓付也…付嘱」。注五字は、「付嘱」に付さるべきもの。岡田氏解説三〇べによる。

2 「枝」は、「技」のあやまりか。有坂秀世『国語音韻史の研究増補新版』六八八へ参照。

3 「尸」は、原文「尺」。名義抄によりたゞす。

4 原文「祖」。おしがみによる。

5 「腸」「腎」「肺」三字、原本おしがみによる。

6 直音下字、あるいは「類」か。さすれば、平声と去声との差のみとなる。

7 原文「注」。同治本によりたゞす。以下おなじ。

8 卷二十七のはじめ。標出字なく、推定。

9 原文「祝」。同治本による。次章参照。

- 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10
- 原本おしがみ「室」。  
 原文「于」。  
 原文「逮」。  
 あるいは「暄」などの誤写か。  
 「下冗」ではなく、「亮」などか。  
 「間」字のうえ、「和」の字のごとくもみえる。  
 原文「卑」。同治本による。次章参照。  
 同治本による。  
 あるいは、「亮」などか。  
 あるいは、「商」か。たゞし、名義抄「商商音傷上俗下正」。  
 原文「容」。  
 原文「普」。  
 原文つくりの「父」かきくわえ。  
 原本「鑿」。同治本による。  
 原本おしがみ「衾」。  
 原本おしがみ「含敷」。  
 原文「千」。

### 三

直音形式による音注は、慧苑の補訂新訳大方広仏華嚴經音義（同治刊本、二十五卷本元応一切経音義付載）、大治本一切経音義收録の新華嚴經音義にも、わずかながら、みられる。

大治本のそれは、

発趾 下音止

晷漏 音軌

慧苑のは、

瀬音頼

（第十四）

（シ）、慧苑第六十七にも）

（第十三）

- 璣音丸 （第二十八）  
 鑿音牟 （第十四）  
 稼音嫁 （第四十二）  
 穉音色 （シ）  
 回音迴 （第四十七）  
 驚音就 （第六十）  
 乘音纏 （第六十二）  
 泗音四 （シ）  
 沚音止 （第六十五）  
 坻音遲 （シ）  
 楊音蕩 （第七十二）

のごとき例である。これらは、いずれも、韻書にてらせば、直音上字と直音下字とが、あるいは当然のことながら、同韻同母である。かゝる性格をもつ慧苑音義などからの引用と目されるものが、私記の音注にある。巻数も標目字も一致する。6、25、40、65、171である。さらに、122の直音下字「卑」は、慧苑音義の「早」にたゞさるべく、84の直音下字「祝」は、慧苑音義にみえるごとき「税」の誤写とみなされる。76の直音下字は、私記「迴」慧苑音義「回」であるが、この二字は、「洄」と同韻同母である。以上の三例は、さきの五例にくわえうる。巻数などの一致をとねば、172も、また、130、131の直音下字「家」が慧苑の「嫁」をあやまったものともなせば、やはり、こゝに属する。

私記には、なお、同韻同母の直音音注がある。まず、5、10、26、27、28、52、56、62、81、97、98、105、136、137、145、161、169、

182、184、185、186のごときは、すべて、観智院本類聚名義抄にみえる直音形式の音注と一致するのは、注意さるべきであろう。たとえば、5、10に対しては、

腹上複 (仏中一一八べ、日本古典全集のページによる)

涌上勇 (法上三九べ)

のごときである。繁をいとい、以下、一々はあげない。名義抄の「」が字音であり、和(音)、呉(音)に対して、もちいられていることと、換言すれば、名義抄の編纂者意識に、かゝる区別の存したことからすれば、みぎの例は、偶然の一致とはいえない。名義抄の成立年代が、私記のそれより、はるかにくだるゆえをもって、みぎの例を無視することはできない。むしろ、かゝる点にこそ、字音の伝統をうかがうべきであろう。

198も、名義抄の

憎上曾 (法中一〇一べ)

にてらすことができる。私記の直音下字「増」が「曾」のあやまりであるにせよ、ないにせよ、この二字は、「憎」と同韻同母である。これに、いた例が、57である。私記の直音下字「吾」が、もと、名義抄にみえる。

寤上悟 (法下四六べ)

の「悟」であったとすれば、同韻同母となる。「吾」そのまゝであっても、王仁珣刊謄補缺切韻第二種の反切「五故反」を適用すれば、同様の結果となる。

同韻同母に、なお、20、69、140があり、ことに、69は、名義抄の

隅上虞 (法中四二べ)  
愚上虞 (法中一〇〇べ)

が参考できる。このほかにも、同韻同母のものとして、171のごときがあり、193も、直音上字「謙」に、唐写本切韻第三種の反切「古兼反」をあてれば、この類にはいる。

以上にあげた例は、音注における伝統的な用字法の影響とでもいうべきものをかんがえさせる。したがって、私記における直音形式の音注の整理にあたっても、別途に、とりあつかうべきもの、と、かんがえられる。

なお、一見、同韻同母とみなされるものの、注意すべき例がある。205に対して、名義抄には、

抑上憶……呉億 (仏下本七八べ)

億上憶 (仏上三べ)

とある。私記の直音下字「億」を「憶」のあやまりとみるまえに、名義抄の「呉(音)億」に注意される。206も、同様に

臆上憶 (仏中一一九べ)

に、30、31は、

維上惟 (法中一一四べ)

唯上惟 (仏中五九べ)

に、てらしあわすことができる。これらは、私記の直音音注が、いわゆる呉音をしめたもの、と、うたがうことのできる例である。

つぎに、同韻同母ではないが、名義抄のいわゆる呉音音注と合致する例に、47、108、167、178（それ〴〵に仏上四〇べ、仏下本二五べ、僧中四〇べ、僧中五〇べ参照）などがある。このほか、名義抄を参看して、あるいは、呉音とおもわれるものもすくなくはない。

この反面、むしろ、漢音系とみられるものもあることは、有坂博士の指摘したとおりである（『国語音韻史の研究増補新版』六八六べ）。

つぎに、名義抄のいわゆる倭音注とひとしいものに、174がある（仏下本一二九べ）。また、名義抄の援用によって、倭音注とみられるものに、2、12、16、55、75、107、119、166、168、201などをあげることができる。

大治本に、

園圃 下補五反江東音布 (第十四)

の例がある。「圃」は、広韻「博五切又博故切」である。大治本の反切は、「博五切」にひとしく、「江東音布」は、広韻の「又音」におなじい。この「江東音布」とするがごとき、いわば他方言の音を直音形式の音注でしめす方法がある以上、私記にみえる直音形式の音注も、たゞしい漢字音に対する方言的な音、つまりは、いわゆる倭音注であろうか、とするみとおしも可能ではあろう。上代倭音の本質は、なお、いまだ十分あきらかではない。私記における直音形式の音注は、この点について、価値を有するが、用例のとぼしさは、いかんともしがたい。要するに、いわゆる倭音の問題も、用例の蒐集と整理の段階にある。古代日本語の音韻についても、私記の直音音注をもって、二、三の発言も可能とはおもうけれども、いまは、資料提示にとどめて、他は、のちの機会にゆずる。

1、慧苑の直音音注と私記のそれとでは、一致しない例がある。79、117である。前者では、直音下字が「体」「檀」とあって、同韻同母であるが、私記では、いさゝか、ことなっている。

2、たとえば、155のごとき例は、サ行音の音価推定に利用しうるか、ともかんがえられる。

— 本学助教授 —